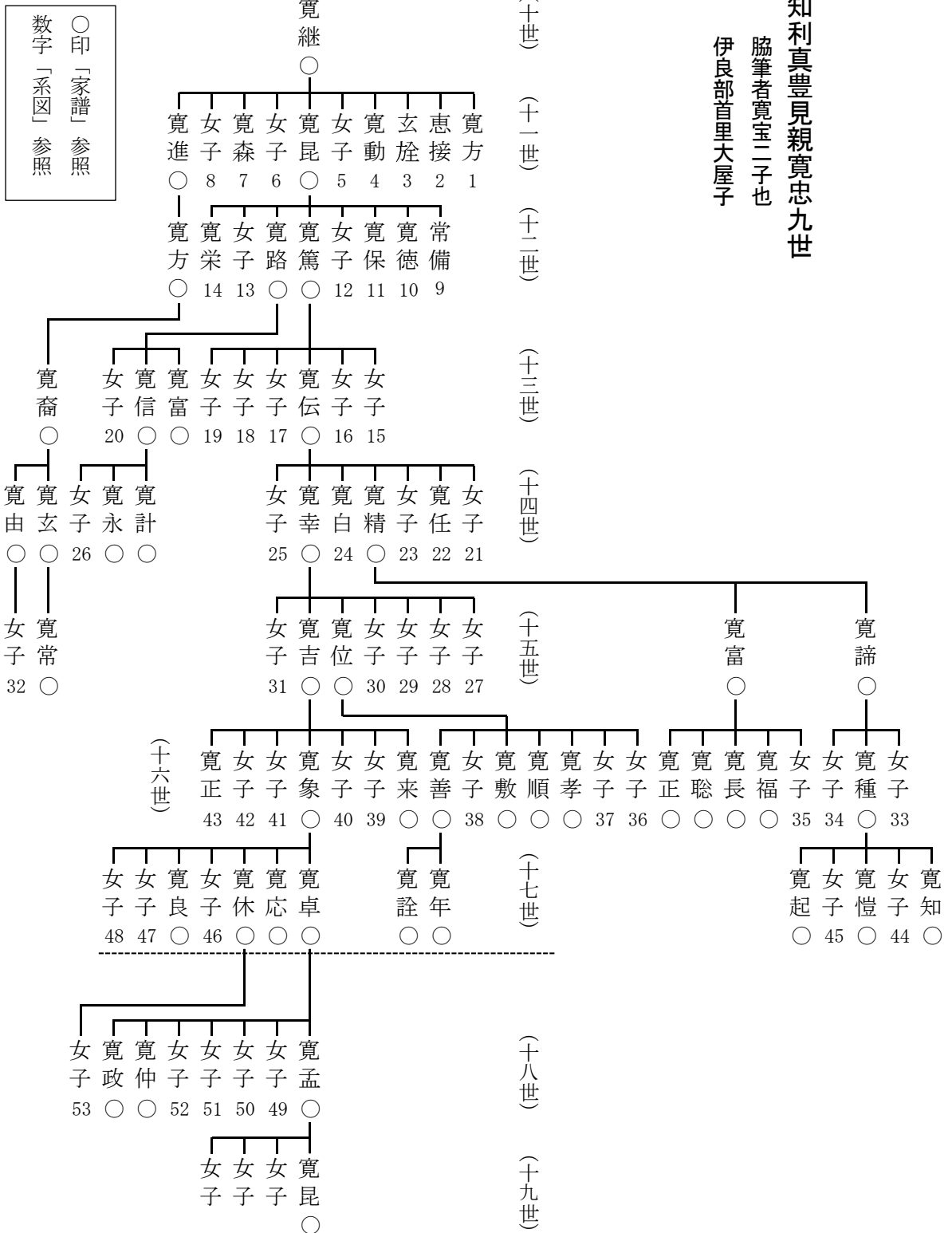


知利真豊見親寛忠九世

脇筆者寛宝二子也

伊良部首里大屋子



## 史料紹介

### 宮金氏系図家譜支流

仲宗根 將二

宮金氏は周知のように、宝剣「治金丸」を王尚真に献上することで、宮古の統治権を首里王府に結びつけた仲宗根豊見親(玄雅)の三男、知利真良豊見親(寛忠)を元祖とする系統である。ここに紹介する系図家譜は十世寛繼に始まる支流であるが、正統家譜等からの転記であろうか、元祖知利真良から九世まで嫡統とみなされる世系図が明記されて、十世寛繼につなぎ、さらに近代に入る十九世寛昆まで記録されている。十七世寛卓、ついで十八世寛孟による、あるいは両者に よる仕次であろうか。

元祖宮金氏知利真良豊見親寛忠<sup>1</sup>—嫡子下里首里大屋子寛賢<sup>2</sup>  
—嫡子平良親雲上寛憲<sup>3</sup>—嫡子友利首里大屋子寛倍<sup>4</sup>—嫡子下里船筑友利仁也寛次<sup>5</sup>—嫡子島尻首里大屋子寛経<sup>6</sup>—二男下里与人寛正<sup>7</sup>—嫡子下地親雲上寛致<sup>8</sup>—嫡子脇筆者下地仁也寛宝<sup>9</sup>  
—二男伊良部首里大屋子寛繼<sup>10</sup>—嫡子東仲宗根与人寛昆<sup>11</sup>—二男与那覇与人寛篤<sup>12</sup>—嫡子若文子下地仁也寛伝<sup>13</sup>—二男平良仁也寛幸<sup>14</sup>  
—二男富盛寛吉<sup>15</sup>—嫡子富盛寛象<sup>16</sup>—四男富盛寛卓<sup>17</sup>—長男富盛寛孟<sup>18</sup>—長男富盛寛昆<sup>19</sup>

表紙は失われていて、系図作製時の筆頭名が明記されていたであろうに確認できないのは惜まれる。支流のせいか序

文もついていない。

また、系図上は十世寛繼からの支流であるのに、前記のように、なぜか元祖から十九世までの歴代世系のほか、十四世に「初代」を付し、「十九世・六代」まで併記している。系図上は同一だが、十四世からはさらに分家しているということであろうか。

#### 1. 八重山「長栄氏」の祖

一五〇〇(弘治十三)年二月、首里王府軍が八重山のオヤケアカハチらを制圧したとき、仲宗根豊見親に率いられた宮古勢はその先導役をつとめている。アカハチらを制圧したあと、王府は仲宗根豊見親の二男祭金(玄数)を統治者として配置したが、四年後、祭金に替えて知利真良が配置されている。知利真良は信望厚く八重山にとけ込み、子孫を残している。長栄氏はその後裔と伝えられている。「長栄氏系図家譜正統」には、元祖石垣親雲上信保について、父は「宮古島忠導氏之後胤也」と明記されている。忠導氏とあることから、元祖は、仲宗根豊見親か、祭金か、知利真良かと諸説あるようだが、永住した(?)知利真良が有力とみなされている。大浜信泉(早稲田大学総長)、大浜信光(詩人)、宮城信勇(言語学)らはその後裔であろう。

大浜信泉の学生時代は船旅のところで、休暇で八重山へ帰省するさいには、宮古で一時的に下船して、外間の忠導氏正統の仲宗根家に宿泊するのを慣例にしていたと伝えられている。

#### 2. 二大豪族の一つ

「宮古島在番記」によれば、平良・下地・砂川三間切の歴代頭職（大首里大屋子）は一〇人。なかでもつとも多いは、初めて沖繩本島の王権と公的交渉を持ったと伝えられる与那覇勢頭豊見親（恵源）を元祖とする白川氏の三五人、ついで忠導氏十七人、宮金氏十三人とつづく。忠導・宮金両氏の始祖は父子であり一つとみて合わせて三〇人とみることもできよう。白川氏と忠導氏が宮古を代表する二大豪族と称される理由であろう。

十世寛継に始まる支流には頭職はいないが、頭職との姻戚関係は多く、首里大屋子、与人クラスも多し。十世寛継の室は同氏平良親雲上寛頼の娘真津、寛継の娘嘉那志は忠導氏砂川親雲上玄孫の室、十二世与那覇与人寛篤の室免嘉は益茂氏下地親雲上昌繁妾腹の娘、十三世惣横目筆者寛伝の娘嘉那志は白川氏下地親雲上恵教の継室である。

これまで宮古内の家譜は数十点確認されているが、未確認の平保氏（景）や栄伝氏（元）、張宏氏（良）が出てきている。

このほかの記述では、上国の帰途、逆風にあつて八重山に漂着した、同じく上国にさいして本部間切に漂着したが、それぞれじ公務を終えて帰った（十世寛継）、大美御殿に奉公して、白麻や苧葉粉を拝領した（十一世寛昆）、上國中、那覇・波之上で溺死しかけた水夫を救助して助命した、島尻村へ漂着した唐人や異国人の世話をした（十五世寛富）などの記述もみえる。

### 3. 「郷土誌」を著わす

一八七九（明治十二）年、廃藩置県後、戸籍法が適用されて系図座が閉鎖されたであろう後も、私的に系図を仕次したとみなされる十七世寛卓（一八七一〜一九二四）は、宮古出身初の沖繩中学卒業生で、のちに「おもしろと沖繩学の父」と称される伊波普猷に一期先輩。卒業後は生涯郷校で教鞭を取り、仲宗根玄愷、佐久田昌章・昌教兄弟、宮古史を初めて体系化した『宮古史伝』の著者慶世村恒任や洋画家宮原昌茂らをも教えている。一九一（明治四四）年、謄写刷りではあるが「郷土誌」を著わし、一九二二（大正十一）年には稲村賢敷の案内で来訪したロシア人の日本研究家ニコライ・ネフスキーに宮古の歌謡や民俗等の調査に協力している。伊波普猷に宮古の歌謡等を提供するなど、その交友もよく知られている。宮古出身者として、宮古研究の草分け的存在といえよう。

〔付記〕本史料は、在京の十八世富盛寛孟の長女深川節子さんから、友人の佐渡山力氏に提供されたコピーをもとに翻刻したものです。翻刻に当たっては、下地和宏氏の協力を得ました。併せて感謝の意を表します。判読困難な文字は□で記し、欠字は□<sup>\*</sup>としてあります。なお史料の概要については、二〇一七年十二月十六日、宮古郷土史研究会の定例会で、「宮金氏系図家譜支流」と富盛寛卓のこと、と題して一部報告しました。

宮金氏系圖支流

- 1 寛方 平良仁屋雖為妾腹兄寛進平良仁也依無繼子為猶子
- 2 惠接 洲鎌与人 白川氏佐和田与人惠將依無繼子為贅猶子
- 3 玄旌 新城目差 忠導氏尻外間 川滿目差親雲上依無繼子為猶子
- 4 寛動 山川仁屋 内間小浜仁也為小祖
- 5 女子 免嘉 新僧氏大新僧 下里仁也利嘉室  
母 宮金氏平良親雲上寛頼女真津  
康熙十九年庚申十二月六日生
- 6 女子 嘉那志 忠導氏砂川親雲上玄孫室  
母同 姉免嘉  
康熙二十二年癸亥七月七日生
- 7 寛森 東仲宗根目差東川根為小祖
- 8 女子 嘉那志盛 宮金氏高立 砂川与人寛定室  
母同 姉免嘉  
康熙三十四年乙亥十月二十五日生
- 9 常備 伊佐仁屋 雖為妾腹思明氏伊佐仁屋常惠依無繼子為猶子
- 10 寛徳 池間与人 細角地為小祖
- 11 寛保 新里目差 尻保屋為小祖
- 12 女子 嘉那 康熙四年乙酉正月十日生

- 母 根馬氏与那霸与人定欠女免嘉  
乾隆六年辛酉七月十八日去 号葭兵妙朱
- 13 女子 免嘉 康熙六十年辛丑八月九日生  
母同 姉嘉那  
乾隆六年辛酉五月十五日死 行年二十一 号瀨清妙口
- 14 寛栄 伊良部仁屋雖為妾腹宮金氏東座 水納目差寛時  
依無繼子為猶子
- 15 女子 松 忠導氏新里仁屋玄忠室  
母同 姉松  
乾隆十三年戊辰十一月七日生
- 16 女子 松 白川氏西仲宗根与人惠孟室  
母 益茂氏下地親雲上昌繁妾腹之女免嘉  
乾隆元年丙辰十一月四日生
- 17 女子 免嘉 宮金氏平良仁屋寛良室  
母同 姉松  
乾隆十年乙丑七月二日生
- 18 女子 免嘉  
母同 姉松  
乾隆十八年癸酉十二月三日生 同三十四年己丑口口十六日死 号梅心妙香
- 19 女子 屋真  
母同 姉松  
乾隆二十二年丁丑四月九日生 同二十三年戊寅十二月五

日死

20 女子 免嘉 妾腹之子忠導氏棚原也玄賢室

母 東仲宗根村百姓赤頭仲宗根仁屋女仁嘉

乾隆四年己未正月七日生

21 女子 嘉那 白川氏砂川仁屋惠□室 再嫁同氏下地親雲

上惠教室

乾隆四十五年庚子三月二十四日生

22 寬任 龜 乾隆三十五年戊寅八月四日生

同三十七年庚辰三月五日生

23 女子 笏根千代盛 白川氏大筆者惠將室

母 宮金氏与那霸目差寬備二女嘉免

乾隆三十二年丁亥六月□日生

24 寬白 松金 乾隆三十八年乙巳九月九日生

同三十九年甲午七月二十日去

25 女子 龜 宮金氏平良仁也寬光室

母同 姉笏根千代盛

乾隆五十一年丙午八月十三日生

26 女子 嘉那

母 白川氏下地仁屋惠宣女也

乾隆三十四年己丑六月十四日生 同三十六年辛卯八月十

四日□

27 女子 嘉那 候隆氏小祿仁也正嘉室

母同 姉免嘉

道光三年癸未正月十三日生

28 女子 嘉那 英俊氏平良仁也恒永室

母同 姉免嘉

嘉慶二十五年庚辰正月十五日生

29 女子 免嘉 (行年三十二)

母益茂氏故国仲仁屋昌□女松<sup>次</sup>

嘉慶十四年己巳五月七日生 道光十九年己亥正月七日生

30 女子 免嘉 白川氏仲宗根仁也惠條室

母 忠導氏下地仁也玄節跡目砂川仁屋玄□女免嘉<sup>次</sup>

嘉慶五年庚申九月六日生

31 女子 蒲戸 忠導氏上地仁也玄福室

母同 姉免嘉

嘉慶二十三年戊寅十二月二十九日生

32 女子 屋真 根馬氏狩俣仁也定式室 再嫁伊安氏砂川仁

也方楷室

母 忠導氏池間亦也玄起女免嘉

嘉慶十六年辛未五月十日生

33 女子 免嘉

母 宮金氏大浦目差寬序長女龜

道光十六年丙申十一月十四日生

同二十年庚子正月二十日去

34 女子 嘉那 玻立氏我如古尔也泰□□

母同 姉免嘉

道光二十二年壬寅二月二日生

35 女子 嘉那 宮金氏波平仁也寬起室

母 白川氏仲宗根仁也惠幸長女嘉那

道光七年丁亥七月二十日生

咸豐十年庚申六月二十一日去 号湛然妙心

36 女子 免嘉

母同 姉免嘉

道光三十年庚戌九月九日生 夭亡

37 女子 龜 智問氏棚原仁也喜良室

母同 姉免嘉

道光二十二年壬寅一月二日生

38 女子 免嘉

母 忠導氏新里目差玄長七女松

道光七年丁酉九月十一日生 不祿年号月日 不詳

39 女子 龜

母 忠導氏比嘉目差玄肥三女龜

道光二十一年辛丑七月二十日生 同治二年癸亥二月九日

去 号法空妙心 行年三十三

40 女子 蒲戸 張宏氏親伯仁也良禎室

母 任孫氏宮国尔也忠竹五女免嘉

道光六年丙戌九月二十八日生

41 女子 松

母 宮金氏宮国筑登之寬芳三女免嘉

道光九年己丑十二月十七日生 夭亡

42 女子 坊 白川氏野村仁也惠起室

母同 姉龜

道光二十四年甲辰十一月十五日生

光緒四年戊寅二月七日生 号春源妙花 行年三十五

43 寬正 坊 伊志嶺尔也 從伯父上地目差寬富依無継子請

訟為跡目

44 女子 蒲戸

母 松 平保氏山里仁也景良長女也

同治九年庚午三月二十七日生

45 女子 □□□

母同 姉蒲戸

同治十一年壬申九月三日生

46 女子 免嘉 忠導氏新里玄意室

母 白川氏玉代勢尔也惠伴長女松

咸豐七年丁巳九月十二日生

光緒十五年己丑十一月廿四日生 号安養常心 行年三十

三

47 女子 嘉那 忠導氏友利玄秘室

母同 姉免嘉

同治元年壬戌閏八月二十六日生

48 女子 免嘉 白川氏川滿惠晶室 明治三十八年乙巳新

九月十八日旧八月二十日庚申離婚

母同 姉免嘉

同治八年己巳三月四日生 明治三十九年一月六日旧十二

月十二日去 号貞室妙香 行年三十七

49 女子 松 大正拾年辛酉拾貳月拾九日旧拾壹月貳拾壹日

丙辰榮伝氏富永元良二嫁ス

母 白川氏宮国恵自二女マツガマ

明治三十四年辛丑拾壹月拾八日旧十月八日庚子午前五時

生

50 女子 カマド(タケ)

母同 姉松

明治參拾六年癸卯八月壹日旧六月九日辛酉午後九時生

51 女子 ヨノシメガ(ウメ)

母同 姉松

明治參拾八年乙巳六月四日旧五月二日甲戌午前〇〇

52 女子 ヤマ(キク)

母同 姉松

明治四拾貳年己酉七月拾參日甲戌午〇〇〇參拾分生(旧五

月貳拾六日)

53 女子 真津

母 浦渡氏渡久山常規三女真津

明治十七年甲申八月十三日生(戸籍二八十四日トアリ)

### 宮金氏家譜 記録

十世 伊良部親雲上 寛繼

童名 山戸 順治十四年丁酉八月十八日生

雍正三年乙巳十月八日逝 寿六十九 号鶴林自休

父 寛宝 脇筆者

母 免嘉 真世氏狩俣船之筑女也

室 真津 宮金氏平良親雲上寛頼女也 順治十七年庚子生

雍正五年丁未十二月九日卒 寿六十八 号槐屋妙貞

尚貞王世代

康熙十二年癸丑八月六日結片髮

同十六年丁巳為若文字

同十八年己未十一月十一日任東仲宗根目差

同二十五年丙寅為地船作事役到八重山嶋公事全終帰島

同年為脇筆者

同二十七年戊辰任久貝与人

同二十九年庚午為御用布宰領從大和船六月十八日漲水開船

到中山公事全終而帰島之砌逢逆風飄到八重山嶋翌年二月

十二日帰島

康熙三十五年丙子貢物為宰領從夏立船上国公事全終帰島

同三十六年丁丑御用布為宰領從飛船上国公事全終帰島

同四十一年壬午貢物為宰領從夏立船上国公事全終帰島

同四十二年癸未十一月八日任伊良部首里大屋子

同四十七年戊子為貢物宰領上国公事全終帰島

尚敬王世代

康熙五十三年甲午八月一日叙黃冠

同五十四年乙未為貢物宰領漲水開船中山近乘行忽然風迴不能乘入干那霸故任風本部間切之内干水納着崖時颶風起本船及破損雖然乘人數無恙諸御用物上納事終歸島

康熙五十九年庚子為貢物宰領到中山公事終歸島

十一世 東仲宗根与人 寬毘

童名 山戸 康熙二十年辛酉八月二十五日生 乾隆十九年

甲戌七月八日卒 寿七十四 号□庭寿祝

父 寬繼 伊良部親雲上

母 真津 宮金氏平良親雲上寬賴女也

室 免嘉 根馬氏与那霸与人定□女也 康熙二十二年癸

亥二月七日生 乾隆二十年乙亥七月六日卒 寿七十三

号慈庭妙萱

尚貞王世代

康熙三十六年丁丑八月十五日結片髮

同五十四年乙未上国大美御殿掛被仰付滞留仕 同五十六

從酉年翌戌年迄御茶湯庫理筆者相勤同冬歸島

附 右御殿御奉公縁故從御内證白麻二束国分御麥葉粉十抱

拝領

同五十九年庚子正月十四日為若文子

雍正六年戊申十月四日任野原目差

同十二年甲寅為貢物宰領從夏立船上国公事全終歸島

雍正十三年乙卯四月朔日任東仲宗根与人

乾隆六年辛酉就不届被謫千久米島 同十三年戊辰得赦免歸島

同十五年庚午九月二十六日叙赤八卷

尚穆王世代

乾隆十六年辛未八月二十八日陞筑登之座敷

十一世 平良仁屋 寬進

童名 龜 康熙二十四年乙丑三月五日生 同五十年戊戌三

月十日去

父母同 兄寬毘

室 免嘉 安次富親雲上当島在番詰之時生產之女也 康熙

二十七年丁卯八月五日生 同五十五年丙申三月十一日去

寿二十九

尚貞王世代

康熙四十年壬子九月三日結片髮

十二世 与那霸与人寬篤

童名 龜 康熙五十年辛卯八月七日生 乾隆三十六年辛卯

四月九日去 号義宏宗哲 行年六十一

父母同 兄寬路

室 免嘉 益茂氏茂手屋 下地親雲上昌繁妾腹女也 康熙

五十五年丙申九月十七日生 乾隆五十九年甲寅八月二日



去 号玉德妙安

尚敬王世代

雍正五年丁未九月九日結片髮

乾隆四年己未二月二十七日為假若文字

同九年在番筆者祝嶺里之子親雲上相隨彦良間島風俗見分及

水納島針図筆者到彼地事終歸島

同十三年白川氏狩侯首里大屋子惠路相隨諸木種子攝取用上

国公事全終歸島

同年八月十五日任野原目差

尚穆王世代

乾隆十六年辛未為貢物宰領從後立船上国公事全終歸島

同年八月二十八日叙筑登之座敷

同十七年壬申九月二十五日任脇筆者

乾隆十八年癸卯益茂氏砂川親雲上昌雅相隨從春立船上国公

事全終歸島

同年九月十五日任脇目差

同十九年甲戌八月十二日任下里与人

同二十一年為地船作事役到八重山島事終歸島

同二十四年己卯彦良間島百姓引合及風俗為見分到彼地事終

歸島

同二十七年壬午貢物為宰領到中山公事全終歸島

同二十九年甲申午之秋走大唐船為案内者上国公事全終歸島

同三十二年御物為宰領從春立船上国首尾能相勤歸島

乾隆三十三年戊子九月十五日為塩川与人

同三十四年己丑八月二十八日為惣横目  
同三十五年庚寅八月八日為与那霸親雲上

十二世 平良仁屋 寛方

童名 松 康熙二十五年丙寅二月四日生 同五十八年己亥

三月五日生

父 平良仁屋 寛進

実父 寛繼 伊良部首里大屋子

実母 塩川村百姓屋真女免嘉

尚貞王世代

康熙四十一年癸未四月三日結片髮

十二世 下地仁屋 寛路

童名 蒲戸 康熙四十六年丁亥三月六日生

乾隆六年辛酉五月九日故時年三十五 号仁心宗清

父 寛昆 東仲宗根与人

母 免嘉 根馬氏与那霸与人定欠女也

室 嘉那志 忠導氏池間目差欠女也 康熙四十八年乙丑

八月二十四日生 乾隆六年辛酉五月十八日故時年三十三

号花岳妙心

尚敬王世代

雍正元年癸卯九月九日結片髮

十三世 伊良部仁屋 寬富

童名 屋真 雍正十一年癸丑三月三日生 咸豐二年壬子十一月二十日去

父 寬路 下地仁屋

母 嘉那志 忠導氏尻住屋 池間目差女也

尚敬王世代

乾隆十三年戊辰三月八日結片髮

十三世 仲宗根仁屋 寬信

童名 山戸 乾隆三年戊午六月一日生 咸豐二年壬子十一月十五日去 号六

父母同 兄寬富

室 免嘉 白川氏下地仁屋惠宣女也 雍正十二年甲寅七月

二日生 咸豐二年壬子九月十日去

尚穆王世代

乾隆十六年辛未八月三日結片髮

十三世 安次富仁屋 寬齋

童名 屋真 乾隆二年丁巳六月十三日生 嘉慶元年丁巳八月二十八日死

父 平良仁屋 寬進平

母 免嘉 安次富親雲上当島在番詰之時生產之女也

室 龜 向裔氏下地筑登之朝六女也 乾隆五年庚申八月八

日生 嘉慶三年丙午二月十八日去

尚敬王世代

乾隆十六年辛未八月十七日結片髮

十三世 下地仁屋 寬伝

童名 坊座 乾隆五年庚申正月八日生 同五十九年甲寅十二月十四日死 号寒林宗梅 行年五十五

父 寬篤 与那霸与人

母 免嘉 益茂氏下地親雲上昌繁妾腹之女也 乾隆五十九年甲寅八月二日去 号玉德妙安

室 嘉那 南興氏仲地与人明堯女也 乾隆六年辛酉正月三日生 嘉慶四年己未四月二十一日去 号和室妙順

繼室 龜 宮金氏与那霸目差寬備二女也 乾隆十年乙丑七月三日生 嘉慶十九年甲戌正月九日去 号天寿妙性

尚穆王世代

乾隆十九年甲戌十一月十八日結片髮

同三十年乙酉十月二十一日為杣山筆者

同三十一年丙戌十一月二十一日為若文子

同四十八年癸卯九月九日赤八卷頂戴

同五十一年丙午十二月朔日為惣横目筆者

十四世 与那霸仁屋 寬精

童名 屋真 乾隆二十九年甲申八月九日生 道光二年壬午

八月二十日去 号自寛玄性 行年五十九

父 寛伝 下地仁屋

母 嘉那 南興氏仲地与人明堯長女也

室 免嘉 忠導氏佐和田目差玄次二女也 乾隆三十九年甲

午二月十九日生 咸豐四年甲寅八月二十三日去 号寿仙

妙永

尚穆王世代

乾隆四十二年丁酉九月二十一日結片髮

同四十九年甲辰十月九日為耕作仮筆者

同五十七年壬子正月朔日為仮若文字

十四世 平良仁屋 寛幸

童名 屋真 乾隆四十年乙未七月六日生 道光十一年辛卯

三月八日去 号法身無相 行年五十七

父同 兄寛精

母 龜 官金氏与那霸目差寛次二女也

室 忠導氏砂川仁屋玄寄女免嘉 乾隆四十四年己亥四月朔

日生 道光二十七年丁未十一月十一日去 号義岳妙高

行年六十九

尚穆王世代

乾隆五十四年己酉八月十五日結片髮

同五十八年癸丑夏良間島江御用筋二付而為飛脚使罷渡首尾

能相勤帰島

尚成王世代

嘉慶九年甲子八重山島春立船御国許ヨリ帰帆之砌於当島乘  
船破損二付彼島頭以下役々送届為宰領彼島罷渡首尾能相

勤帰島

尚灝王世代

嘉慶十年乙丑十月六日為若文字

同十五年庚午八月二十三日赤八卷頂戴

同十七年壬申九月八日為川満目指

同二十二年丁丑八月二十日筑登之座敷頂戴

同二十五年庚辰出物御用布為宰領早船馬艦ヨリ上国首尾相

勤帰島

道光元年辛巳夏良間島定納穀取責為檢見役從馬艦罷渡首尾

能相勤帰島

同二年壬午御物穀並諸御用布諸御用物為宰領仲立地船ヨリ

上国仕公事相勤於御国許去

十四世 平良仁屋 寛玄

童名 屋真 乾隆三十四年己丑四月十六日生 嘉慶十三年

戊辰七月十三日去

父 安次富仁屋寛裔

母 龜 向裔氏下地筑登之朝次女也

室 免嘉 白川氏洲鎌仁屋惠喜女也 乾隆三十一年丙戌十

二月十一日生 嘉慶十四年己巳六月十三日去

尚穆王世代

乾隆四十年乙巳四月八日結片髮

十四世 平良仁屋 寬由

童名 蒲戸 乾隆四十一年丙申八月九日生 嘉慶二十年乙

亥五月十日去

父同 兄寬玄

母 免嘉 東仲宗根村百姓荷川取筑登之女也

室 □<sup>次</sup>

尚穆王世代

乾隆五十六年辛亥正月七日結片髮

十四世 <sup>次</sup> 寬常

童名 蒲戸 嘉慶十一年丙寅七月十三日生 同二十二年丁

丑十二月七日去

父 寬玄 平良亦也

母 免嘉 白川氏洲鎌亦也惠喜女也

十四世 寬永

童名 蒲戸 乾隆二十六年辛巳六月十七日生 道光二十六

年丙午九月二十日去

父 寬信 仲宗根仁屋

母 免嘉 白川氏下地仁屋惠宣女也

十四世 寬計

童名 屋真 乾隆三十四年己丑六月十四日生 同三十六年

辛卯五月十八日死

父母同 兄寬永

十五世 寬位 砂川尔也

童名 龜 嘉慶十年乙丑十二月十一日生 咸豐二年壬子正

月七日去

父 十四世 平良仁屋 寬幸

母 東仲宗根村百姓下里筑登之女免嘉

室 松 忠導氏新里目指玄長七女也 嘉慶十三年戊辰十一

月二十三日生

尚灝王世代

道光三年癸未正月元日結片髮

十五世 寬吉 友利尔也

童名 坊 嘉慶十一年丙寅六月十一日生 同治七年戊辰七

月二十三日去 号実翁宗悟 行年六十三

父同 兄寬位

母 免嘉 忠導氏砂川仁屋玄寄女也

室 免嘉 宮金氏宮国筑登之寬芳三女也 嘉慶十年乙丑五

月五日生

繼室 龜 比嘉目差玄肥三女也 嘉慶十五年庚午二月二十

日生 咸豐七年丁巳三月九日去 行年四拾八 号大庵妙性

尚灝王世代

道光三年癸未正月七日結片髮

十五世 寬富 下地仁屋

童名 龜 乾隆五十八年癸丑八月二十五日生 咸豐九己未

年七月十二日去 号大心了覚

父 十四世与那霸仁屋寬精

母 免嘉 忠導氏佐和田目指玄次女也

妻 嘉那 白川氏東仲宗根村耕作仮筆者仲宗根仁也長女也

乾隆五十九年甲寅三月三日生 同治八年己巳二月二十六

日去 号寿岳妙栄

尚灝王世代

嘉慶十年乙丑十二月二十七日結片髮

宮古島御注文拜

安谷屋仁屋

右者御国元より被差下置候鯉船水主権次郎先□□波之上東表之海中江相溺候節見当早速引揚既ニ絶命之境ニ相及居候を至極叮嚀致□生候付得秩乗候段御在番奉行被聞召寄特之至被思召候右安谷屋不見当候得者終可及死命茂難計候処無其儀人命ニ付而者不軽事候間右之御取分を□其功相立候様御達之趣有之遂披露候処殊勝之儀被思召候以後其見合有之候様被仰付

候此旨可申渡旨御差凶ニ而候以上

午三月十四日

摩文仁親雲上

伊是名親雲上

御物奉行

右之通被仰渡候間上国老度之旅功被成下度旨得御差凶相济候付其首尾方可被申渡候以上

午三月十五日

垣花親雲上

翁長親方

宮古島在番

尚育王世代

道光二十八年戊申八月二十二日筑登之座敷頂戴

尚泰王世代

咸豐元年辛亥四月廿三日為東仲宗根村耕作仮筆者

咸豐元年辛亥六月廿三日為荷川取村杣山筆者

咸豐二年壬子八月十九日為平安名目差

口上覺

去年漂着唐人並異国人肝煎役七月朔日より同三日迄一日

三ツ取立ニ而勤星六日

右者恐夢御座候得共申上候私事漂着唐人並異国人肝煎役並同筆者被仰付早速より島尻村渡地江差越定詰ニ而諸事之取計向無手抜相勤置申候依之奉願儀御都合之程茂如何敷奉

存候得共右異国人共滞在之砌者島中風氣当ニ而賄諸人目も  
村々都而寄兼候付賄方差支御故障筋杯出来可申哉旨至極心  
配仕昼夜立合之働を以寄納させ順々相賄候上変事ニ応じ  
夫々都合能取計始終共無難ニ相勤置申候間何卒異国向相懸  
例外之御用且遠方難儀之勤前旁別条之御取訳を以壹日ニ三  
ツ取立之勤星被成下度奉願候 此等之趣を以幾重ニも可然  
様被仰上可被仰奉願候以上

寅三月

平安名目差

右申出之通異国向相懸リ例外之御用無難ニ相勤殊勝之者  
共御座候間去卯年来着之阿蘭陀着場定詰人数御取持被仰付  
置候通勤日数日ニ式ツ宛勤星被成被下度奉存候此段申上候  
以上

寅四月

宮古島頭

下地親雲上

同

砂川親雲上

同

平良親雲上

同在番筆者

長嶺筑登之親雲上

同

古波蔵筑登之親雲上

同在番

山内親雲上

御物奉行所

本文遂披露申越之通日ニ式ツ宛之勤星被成下候間其付届  
可被申渡候以上

寅八月

奥武里之子親雲上

伊是名親方

宮古島在番

頭

尚泰王世代

咸豐六年丙辰九月二十一日為亥良間目差

同七年丁巳御用布為宰領馬艦船ヨリ四月十三日宮古島江罷

渡首尾能相勤五月二十八日帰島

十五世 宮国仁屋 寛諦

童名 坊 嘉慶二年乙巳九月十八日生 道光二十三年癸卯

十二月十六日去 号智山了勇

父母同 兄寛富

尚瀬王世代

嘉慶十四年己巳九月十七日結片髮

室 龜 宮金氏大浦目差寛序長女也 嘉慶十七年壬申六月

二十五日生

尚育王世代

道光二十三年癸卯九月十六日為島尻村耕作仮筆者

十六世 寛長 垣花仁屋

童名 龜 嘉慶二十三年戊寅十月二十二日生 道光二十一

年辛丑十月二十七日去 号玉心宗白

父 十五世 下地仁屋寛富

母 白川氏東仲宗根村耕作仮筆者仲宗根仁也恵光長女嘉那

尚育王世代

道光十一年辛卯六月二十九日結片髮

十六世 寬福 奧平尔也

童名 屋真 道光二年壬午閏三月二十六日生 道光二十七

丁未年四月二十日去 号実心宗悟

父母同 兄寬長

尚育王世代

道光十四年甲午九月二十日結片髮

十六世 寬聰 与那霸仁也

童名 屋真 道光四年甲申十月十八日生 咸豐十一辛酉年

八月十六日去

父母同 兄寬長

尚育王世代

道光二十年庚子十二月二十九日結片髮

十六世 寬正 伊志嶺仁也

童名 坊 道光二十六年丙午九月二十七日生 同治八年戊

巳十月十一日去

父母同 兄寬長

実父 寬吉 友利仁也

実母 龜 忠導氏比嘉目差玄肥三女也

尚泰王世代

咸豐八年戊午十月五日結片髮

口上覺

宮金氏若文字染地之与那霸仁屋系内系祖伊良部首里大屋子  
寬繼四代平良仁屋寬幸次男友利仁屋寬吉次男

伊志嶺仁屋寬正

右恐刃御座候得共申上候宮金氏上地目差寬富事男子三人女  
子老人出生仕置為事御座候処不慮致病死寬富事も去未年致病  
死最早系終相成何共残念至極暮悶入居申仕合御座候依之奉願  
候儀御都合之程も如何敷奉存候得共彼伊志嶺尔也事上地目差  
為三者本家之從甥二而跡目之考を以四季之祭典為致執行申事  
御座候間何卒右寬正江跡目相続仕候様被仰付被下度奉願候此  
旨宜様御取成奉願候以上

戊 五月

一門 西仲宗根村染地

羽地 仁屋

親類荷川取村加こもり

下地 仁屋

右通相違無御座候間願通被仰付被下度奉存候以上

戊 五月

東仲宗根目差

譜久村仁屋

西仲宗根目差

親泊筑登之

西仲宗根与人

東仲宗根与人

本文願通相違候間帳面其首尾方可被渡候以上

子 正月

母松 忠導氏新里目差玄長七女也

平良親雲上

砂川親雲上

下地親雲上

屋良里之子親雲上

城間筑登之親雲上

嵩原里之子親雲上

小祿里之子親雲上

与座親雲上

十六世 寬順

童名 屋真 道光十二年壬辰十二月十二日生

父母同 兄寬敷

十六世 寬孝 掠入二付消

童名 蒲 道光二十二年壬寅十二月十八日生

父母同 兄寬敷

十六世 寬善 砂川尔也

童名 松 道光二十六年丙午正月十三日生

父母同 兄寬敷

室 真津 長真氏砂川尔也旨仁三女也 咸豐四年甲寅三月

二十日生

尚泰王世代

咸豐八年戊午八月五日結片髮

十六世 寬象 下地仁屋

童名 屋真 道光十三年癸巳五月二十八日生 明治參拾九

丙午年拾貳月貳拾九日丁未午後參時去 号仁山良寿 行

年七十四

父 十五世 友利尔也 寬吉

母 免嘉 宮金氏宮国筑登之寬芳三女也 嘉慶十年乙丑五

仕上世所遣系図勤定物成方東仲宗根村ノ六ヶ所

役人

十六世 寬種 羽地尔也

童名 与野志 道光十九年己亥四月八日生

父 十五世宮国尔也寬諦

母 宮金氏水納目差寬序長女龜

室 松 平保氏山里尔也景良長女也 道光十九年己亥十二

月十日生

尚泰王世代

咸豐二年壬子十二月二十六日結片髮

十六世 寬敷

童名 蒲戸 道光十年庚寅十月八日生

父 十五世砂川尔也寬位



月五日生

室 真津 白川氏玉代勢尔也惠伴長女也

道光十二年壬辰閏九月十三日生 明治參拾壹年戊戌九月

拾壹日丁丑午後貳時去 号寿淑妙祥 行年六拾七

尚育王世代

道光二十五年乙巳十二月十日結片髮

十六世 寬来

童名 松 道光二十九年己酉四月二十八日生 夭亡

父同 兄寬象

母 龜 忠導氏比嘉目差亥肥三女也

十七世 寬年

童名 龜 同治十年辛未八月十六日生

父 十六世砂川尔也寬善

母 真津 長真氏砂川尔也旨仁三女也

十七世 寬詮

童名 龜 光緒二年丙子閏五月二十日生

父母同 兄寬年

十七世 寬愷

童名 坊 同治六年丁卯六月二十二日生

父 十六世羽地尔也寬種

母 松 平保氏山里尔也景良長女也

十七世 寬起

童名 屋真 光緒元年乙亥三月十八日生

父母同 兄寬愷

十七世 寬知

童名 坊 光緒四年戊寅二月六日生

父母同 兄寬愷

十七世 寬良

童名 屋真 咸豐六年丙辰正月二日生 光緒五年己卯九月

二十八日去 行年二十四 号玉室良福

父 十六世下地尔也寬象

母 白川氏玉代勢尔也惠伴長女真津

十七世 寬応

童名 蒲 同治四年乙丑九月二十六日生 明治二十六年癸

巳旧七月廿八日新九月七日去 行年二十九

父母同 兄寬良

十七世 寬休

童名 龜 咸豐九年己未十二月二日生 光緒十一年乙酉十

一月三日去 行年二十七 号寒林宗栄

父母同 兄寛良

室 浦渡氏渡久山常規三女真津也 咸豊四年甲寅十二月廿四日生

十七世 寛卓

童名 坊 同治十年辛未十二月二十二日生 大正十三年十一月二日去 号卓絶道倫 行年五十四

父母同 兄寛良

室 カナ 忠導氏友利玄任長女也 明治九年丙子七月式拾七日生 明治参拾年旧正月式拾式日婚シ同参拾老年九月式拾九日離□<sup>大</sup>

継室 マツガマ 白川氏宮国恵自式女也 明治七年甲戌参

月式拾七日生 明治参拾参年庚子六月拾五日婚 昭和九年四月二十五日去 号徳光妙寿 行年六十一

十八世 寛孟

童名 坊 明治参拾老年戊戌六月式拾七日旧五月九日辛酉午後拾時生旧五月九日

父 十七世 富盛寛卓

母 忠導氏友利玄任長女カナ也 明治九年丙子七月式拾七日生

室 与野志美嘉 松茂氏仲地紀伝次女也 明治参拾式己亥年拾式月式拾参日生 大正九庚申年拾月式拾壹日旧九月

拾日壬子結婚

十八世 寛仲

童名 加真 明治四拾五壬子年朧月式拾壹日丙申午前拾壹時拾分生 旧辛亥年拾式月参日生

父同 兄寛孟

母 白川氏宮国恵自次女マツガマ也 明治七甲戌年参月式拾七日生

沖繩県農学校卒業 昭和八年十二月十二日死去 行年二十二号英心宗道

十八世 寛政

童名 屋真 大正参年甲寅七月拾日丁酉午前九時参拾分生 旧甲寅年五月拾七日生

沖繩県師範学校在学中病死 昭和十年四月二十五日死去 号本心宗寛 行年二十二

十九世 寛昆

童名 嘉那 大正拾年辛酉拾月式拾壹日 旧九月式拾壹日丁巳午後七時参拾分生

父 十八世富盛寛孟

母 与野志美嘉 松茂氏仲地紀伝之次女也

所蔵 Ⅱ 深川節子（富盛寛孟長女）

東京都新宿区高田馬場四―三七―一七

複製 Ⅱ 佐渡山 力

沖縄県宮古島市平良下里九九八―一三

